

## 資料3【別紙1】

### 自治振興会との意見交換会の発言記録(要約)【水口地域】

日 時	令和2年12月3日(木) 19:00～
場 所	庁舎3階 301会議室
参加者	振興会 伴 谷：左近(会長)・稲葉(事務局長)・大原(マネ) 柏 木：小林(会長)・笹岡(副会長)・川嶋(事務局長)・矢田(センター長) 綾 野：田中(会長)・木田(部会長)・坂田(部会長)・山寄(センター長) 水 口：杉本(会長)・木下(相談役)・市原(副会長)・吉久(センター長) 岩 上：竹田(会長)・福野(事務局長)・穂積(副会長)・西野(センター長) 貴生川：木下(会長)・福沢(副会長)・西村(会計)・山田(事務局長) 行 政 柚口総合政策部次長・出嶋政策推進課長 築島政策推進課長補佐・北野政策推進課係長・呉竹理事員 村田福祉医療政策課長・山本同課長補佐 社 協 大倉課長・桑山センター長

<b>築 島</b>	司会・進行
<b>柚 口</b>	あいさつ
<b>大倉・山本</b>	「地域共生社会(我がごと・まるごと)の推進」について説明
<b>北 野</b>	「小規模多機能自治の推進」について説明
<b>説明事項に関する質疑応答</b>	
<b>水 口</b>	昨年、委員会からいくつかの項目で提言を受けて振興会にヒアリングに来られて説明を受けたが、不十分な気がする。その委員会がまだ続いているという話なので、どういう整理をされているのかお聞かせ願いたい。
<b>政策推進課</b>	検討会から提言をいただき、それに基づきご意見を賜った。今回の自治振興会意見交換会でも既にいろんなご意見を賜ってきた。市の考えは資料にも課題としてあげており、今、提言をもとにこれからの方向性をまとめているところである。この自治振興会の意見交換会は今日が最初、今後もタイミングを見て皆さんのご意見を賜る場を設定したいと考えている。そのときには検討委員会の意見を踏まえた市の方向性をお示しする。
<b>水 口</b>	話は分かるが、スピードが重要だ。特に自治振興交付金の使い方についてはそれぞれの振興会が困っていると思う。例えば事業加算金(の流用)は1割しか認められないとかはスピード感を持って対応いただきたい。当たり前のことだと思う。
<b>政策推進課</b>	交付金は決められた枠内で配分しているので、この基準を見直すとなるとどこかが増えてどこかが減ることになり、慎重に扱っている。遅れていることについてはお詫びする。出来るところから進めていくので早期に皆さんに説明できるよう取り組む。
<b>柏 木</b>	地域共生について、福祉協議会の中にいろんな名称の団体があるが、同じ組織か別の組織かよく分からない。配布されるチラシに新しい団体や活動が紹介されるが、あまりに多岐にわたっていて振興会として全てにお付き合いしかねる。その点、どのように考えているのか。
<b>社会福祉協議会</b>	ご指摘のとおり組織がややこしくなっていたり、同じ人が複数の組織で活動されたりして分かりにくくなっているところもある。そのような中、福祉活動に取り組んでおられる方々の負担感も現実出てきているので、アンケート調査や社協と自治振興会のみなさんとの話し合いなどをする中で、団体の在り方を調整できたらと思っている。
<b>柏 木</b>	ここ数年、小規模多機能自治組織という言葉がよく出てくるが、どんなものか理解ができない。資料には色々書いてあるが、現実的に柏木自治振興会を運営するにあたって多くの人にお世話になる中で、次の担い手が見つからない。我々は仕事を持ちながらボランティアで振興会に関わってきているが、意欲のある方

が手を挙げて集まってきている振興会があるのかどうか、お聞きしたい。

もうひとつ、「区・自治会未加入者も参加可能」について、柏木にも2つの新興住宅団地があるが、区・自治会組織がなく振興会には関わっていない。我々の活動を周知するためにチラシ等で発信し、来られた方は拒まず迎え入れているが、2ヶ月ほど前に自治会組織のないところから防犯灯を付けてほしいという要望が市や市議会にあって、それが自治振興会に回ってきた。我々10年間振興会をやってきて、交付金を使う基準を設けているが、これを覆さないと対応できないような案件なので、振興会ではここまでしかできないと返答したが、これからは問題が出てくるだろう。市としてどう対応されるのか。我々は広報やチラシをできる範囲で配布しているが十分でないと思う。市も区・自治会組織を立ち上げるように働きかけているのか、その現状をお聞きしたい。

#### 政策推進課

1点目の活動の担い手について、自分のことになるが私も地域の自治振興会のスタッフをしていて同じような悩みを抱えている。どのようにすれば関わってもらえるか、スタッフを確保できるのか、人がいないと運営できないので、非常に大きな課題と捉えている。

#### 政策推進課

2点目は最近特にクローズアップされている問題である。区・自治会の加入率は本市でも70%を切っている。柏木地域では、もともと区があるけれども入らないという問題と、未組織の問題とがある。市としても区・自治会の魅力発信の働きかけを以前にしたことがある。柏木地域(北泉)でも文書の回覧板から始めていただいているが、組織化に至っていない現状は承知している。今回の防犯灯の問題を受けて、市としても今後センター職員や振興会の皆さんと相談しながら一緒に取り組み、それがモデルとして広がればありがたいと思っている。

#### 柏木

同じ地域の新興住宅地を無視できないので、7、8年前に戸建ての家だけポスティングをしたが、あまり反応がなかった。しかし、子どもの行事にはたくさん参加される。文化祭などにも保護者と一緒に来られるが、他のことは知らぬ顔というのが現状である。やはり市から地域ごとに声掛けをしてもらわないと一個人では話がかからないし、災害の時などにもその地域に伝わらない。一緒にやりたいという訴えが伝わらないことが残念である。

地域の担い手のことは、現状理解いただいているようだが先の答弁では解決する内容ではない。

今日の資料の小規模多機能自治の特徴の中に、指定管理という言葉がある。何をどうしようと考えているのか、お答えいただきたい。

#### 政策推進課

公共施設総合管理計画というのがある。今後40年の間に施設の床面積を3割削減しようとするものである。その手法としてひとつが統廃合、ひとつが指定管理を含めて地域に管理いただくという手法であり、地域市民センターを地域に委ねることを検討している。

#### 柏木

指定管理を受ければある程度お金がもらえると受け止めている。それを事務局員の給料、報酬に充てることで人集めができるのではないかと考えている。もう少し具体的に進めてほしいと思う。

#### 政策推進課

指定管理は全市全庁的に取り組みを模索しているところである。指定管理のメリットとしては指定管理者が施設を有効に使えることと、そこで収入が得られ運営費が賄えるということ。しかし市内すべての自治振興会が受けていただける環境がない、これらの調整に悩んでいる。また指定管理者となる団体の継続性、組織の熟度が必要となる。十分に検討しその方向で進めて行くので、もう少しお待ちいただきたい。

#### 各自治振興会の活動状況(コロナ対応等)、次年度の予定

#### 伴谷

総会は開催した。もちろん密を避けた。事業としては、人権研修、文化祭は開催した。なお、文化祭は展示のみとした。教室も密をさけながらパソコン教室等を実施、隔月に散在ゴミのパトロール、防災訓練も講演として実施した。子育て広場は8月まで止めたが9月からは月1回、一人暮らし高齢者の集いも実施した。ウォーキングも3回実施したが、球技大会、体育大会は中止した。

来年度は1月に計画を立てるが、概ねこの状態で次年度以降に移っていく予定。なおコロナのこともあるので各部会、役員会で臨機応変に対応していく。

#### 柏木

4月に基本的に全ての事業を中止と決めた。ただ、コロナでも問題なく出来ることはやっている。健康福祉部会の命のバトンの啓発・勧誘・受付、高齢者の見守りキーホルダーの広報・受付、花いっぱい運動における各区への花の苗配布等はやっている。オウムの抗議集会は50人ぐらいに縮小して行った。綾野自治振興会との交流グランドゴルフ大会も実施、また形を変えて子ども食堂を再開させた。ふれあいサロンも三密回避しながら再開した。月1回の役員会は欠かさずやった。防災推進会議は防災士に来ていただいて事務局と一緒に約2ヶ月毎に話し合った。令和3年度は1月から事業計画検討会議を開催し、コロナの終息に希望をもって事業計画を立てる。

#### 綾野

安全文化環境部会では、ほとんどの事業を中止にした。これまでの餅つき大会や歴史講座はどうしても密になるためだが、花いっぱい運動について、春は中止したけど秋は保育園と一緒に実施した。来年度はコロナの終息を前提に決めていこうと思っている。

### 綾野

居場所事業をやっているが、今年はコロナで4月から6月12日まで休会、その後は毎週金曜日に開催した。7月20日からは週3日の開催とし、現在まで月・水・金を継続している。

今現在、貧困の方、特に雇い止めで困っている方が多くいる。ご存じのように6月1日に社会福祉協議会がフードバンクを開設した。我々は子ども食堂もやっていて、その中でボランティアを週に3日しているが、スタッフはなかなか集まらない。お願いしないとスタッフができない。今生活に困っている方が増えている、まる一むでも最近フードドライブをやり始めているが、社会福祉協議会には食べ物が無い外国人が多く来られている。始めて半年だがやり方や新しいスタイルを工夫して来年も継続したい。

### 綾野

健康福祉スポーツ部会では、百歳体操、ちびっこランド、高齢者の集いを計画していたが、7月以降全て中止した。しかし、グランドゴルフは実施、桜まつりはライトアップをした。新しい事業としては綾野女子部まち活事業を立ち上げた。外に向けた具体の事業はないが、警察との懇談など地域共生について話し合っていたらいいと思っている。また防災事業を立ち上げ、関係する団体の方に集まっていたらいい次回に意見を持ち寄る。健康福祉スポーツ部は11月まで活動を中止しており、今後も難しいと考える。

以前から防犯灯のLED化を進めているが、今年度も継続して整備しようと計画している。

### 水口

総会は書面議決、役員会は基本毎月1回だが、4、5月は中止して書面で承認をいただいた。6月以降は毎月実施した。区・自治会長への年度初めの説明会では初めての区長に細かな説明がなかったが文書で周知を図った。各委員会も毎月1回を原則としていたが、前半は中止した部会が多かった。

事業では大人数が集まる組織の全体事業は断念した。盆踊り大会や避難訓練が該当する。それ以外でコロナ感染対策が可能な事業は取り組んだ。11月の文芸作品展は来館者が200人を超えた。事業が出来なかった分は各区にアルコール消毒液を配布した。4委員会ごとの事業で安全安心委員会では、リーダー育成講座は中止、かまどベンチの設置は支援という形で取り組んでいる。小学生下校時の見守り事業は学校の再開に合せ週1回の一斉下校時に実施し、通学路点検も3つの地域に分けて実施完了。健康福祉委員会では幼児や高齢者が集まる事業は中止。子育てサロンでクリスマスのイベントをリモートで行う計画をしている。健康体操やウォーキングはコロナ対策ができる範囲で6月から実施、ウォーキングは年1回になったが実施した。サークル活動や看護学校生徒との交流は参加者が明確なので実施した。環境委員会はほぼ計画どおりで、花いっぱい運動や古城山の整備、クリーン運動を実施した。まちづくり委員会では不特定な人が参加する事業は中止、例年のクイズラリーは断念したが子供たちのスケッチコンテストは実施した。コロナ禍が現状のままなら来年も今以上のことは無理と考えているが、計画は柔軟な組み方で来年に臨みたい。

### 岩上

年度初めに8月までの事業は中止、9月から状況を見ながら例年なみにやろうと進んでいたが、運動会、ミニミニ講座は打ち合わせができず、文化祭もコロナがおさまらない状況下、中止した。広報紙の発行、古着の回収、通学路点検他、集まらずにできる事業として飛び出し坊やを更新する。これは昨年決めた岩上のキャラクターをもとに制作・設置することを計画。あと地域マネージャーを中心に岩上地区の将来像を探る活動をしている。アンケートの整理、各地域を回っての意見交換を実施中で2月までに完了して全体のワークショップでまとめていきたいと思っている。その目的は、例年通りだと新しい役員が育たないし魅力も低下するので将来像を見据えて新しい事業に見直していこうという思いをしている。ワークショップの中で、新しい人材を発掘してその方々にも関わっていただけのようにやり始めた。来年度について、今年は大きな事業を中止したので地域の役員と連携がとれてない。また年度で役員が代わられるので協力いただけるか不安がある。運動会をしてほしいという声も聞いているが来年は形を変えて新しい運動会を考えたいと答えている。今年事業ができなかったので来年度は新しい形で事業を計画していきたい。

市の方へ、数年前に問題解決型事業というのがあったが、無くなったと聞いた。交付金を均等に配分いただいているが、もっとやりたい、新しいことがしたいというときにお金がなくてできない。名前は変わってもよいので、復活いただきたいと思う。

### 貴生川

総会は書面決議、各事業もほとんど中止した。その中でサロン、健康体操は9月から実施した。多くの人数が集まるイベント型のスポーツフェスタやふれあいマーケットは中止した。少人数の事業だけを実施するという状況で、草津線の利用促進に貴生川から甲賀の区間を乗車してくすり学習館、薬草園を見学した。ポッチャ大会、古着回収、住民の手作り野菜や手芸品を販売するうきうきマーケットは月1回実施している。見守り支え合いネットワークを7月に立ち上げ、ようやく軌道にのってきた。今後、情報発信や居場所づくり、各区のサロンスタッフの交流会などを行う。

現在、貴生川駅前のイルミネーションを実施中。南側は自治振興会で、北側は貴生川の商工会で飾り付けている。

コロナ対策として布マスクを全戸に配布する。12月31日に花火を打ち上げる。花火は疫病退散、コロナの終息を願うものである。また空気清浄機を購入、貴生川公民館に設置する。飯道山ハイキングは2月に実施する予定である。防災環境部会では彦根気象台の気象予報士を講師に講演会を行った。それとアンケートを実施したので、来年度の運営につなげたい。来年度は4部会を6部会にして事業を進める計画である。

### 政策推進課

ご質問があった地域課題解決型モデル事業については、人口の差による交付金の不均衡は自治振興会制度の見直し課題のひとつと捉えているが、当初から地域課題解決を前面に出して自治振興会が市の関係課と協働で事業をする制度として手上げ方式で実施したものである。今までではワンワンパトロール事業を生活環境課と、獣害対策と特産品開発を農業振興課と協働で実施した事例がある。現在は予算がないが、アフターコロナの新しい生活様式などのアイデアや提案を協働で進めていけるよう、制度の実施を検討していく。

### 意見交換、その他

#### 貴生川

今日の開催目的は事前に知らされていたが、私としては消化不良である。確かに資料で話題提供いただいた内容はそのとおりだと思うが、実際に自治振興会が10年経って、今後10年後、20年後に実現させようとするなら、このような進め方ではできないと思う。28年に区長をしてその後自治振興会に関わっているが考え方を切り替えないと難しいのではないかと。そのためにはこういうセレモニー的というか市の職員さんからすれば意見交換会をしたというだけでは解決しない。より深い意見交換、膝を突き合わせて議論していく、そういう機会や場を持つようにして、自治振興会ごとに議論できる時間を持つ、コロナ禍で難しいかもしれないが、そういう場をぜひ持っていただきたいと思います。今後、子どもや孫の代のことを考えて、そういう場をお願いしたい。

### 政策推進課

会議の持ち方は変えていく。将来に向けて自治振興会制度をどのように進めていくかは、今日だけではなく、今後も定期的にご意見をいただく場を設けたいと考えているので、ご理解賜りたい。

## 自治振興会との意見交換会の発言記録(要約)【土山地域】

日 時	令和2年11月30日(月) 19:00～
場 所	土山開発センター 大集会室
参加者	振興会 鮎河：三上(会長)・黒河(副会長)・辻(副会長)・矢田(センター長) 山内：岡田(会長)・青木(副会長)・井上(マネ) 土山：吉川(会長)・平井(副会長)・吉村(事務局長)・柚口(地域振興課参事) 大野：中邨(会長)・安井(副会長)・安田(事務局長)・森田(センター長)
行政	田中所長・橋本地域振興課長・出嶋政策推進課長 村田福祉医療政策課長・山本同課長補佐・徳田同課係長 築島政策推進課長補佐・北野政策推進課係長・呉竹理事員
社 協	大倉課長・大久保センター長

橋 本	司会・進行
田 中	あいさつ
大倉・山本	「地域共生社会(我がごと・まるごと)の推進」について説明
北 野	「小規模多機能自治の推進」について説明

### 説明事項に関する質疑応答

#### 山 内

地域共生社会の推進について、本日の資料で皆さんが把握されるとは思えない。もう少し簡単な資料を出して欲しい。自治振興会に何を求めているのか、プラットフォームの部分で自治振興会の役割、行政が何を自治振興会に求めているかをきちっと説明いただきたい。事業が増えてくるとか、維持できるのかといった心配も出ている。柔らかく柔軟に対応できると言われたが、実際に課題をもって活動している中、新たなことに目を向けるのは難しいと思う。

自治振興会が何をすればよいのか、行政サイドが自治振興会に何を求めているのか。今以上によくしていくために、こういうことをすれば良いということは分かるが、私も任期が決まっているので、きちっと引き継いで行けるような説明をお願いしたい。

小規模多機能自治について、確かに目ざすは住民自治で、私もそういう考えを持っていた。行政と地域の違いについて私なりに気づいていることは、トップの選ばれ方である。代表になる者は能力を持って進めていかなければならないが、地域では住民の総意と言いつつも何らかの決められた流れ(あて職ルール等)で会長職になっていると私は思っている。そうした中で地域が住民自治を構築するのは至難の業に近いと経験から思った。自治振興会が全住民に周知し納得してもらえる動きをするのは難しい。自治振興会活動に参加いただいている方は全体から見ると一部だ。これを成し遂げようとする活動者がいないという結論になる。市からの情報伝達は区長会と連携すればできるが、その中身を取り込むのが難しい。それは行政も社協も理解いただいていると思うので、新しい取り組みを進めるにあたって、どのように持って行って欲しいのか、どうあるべきなのかということをもっと分かりやすく、事例をあげて説明いただきたいと思う。

#### 政策推進課

信楽、甲賀、土山の人口が減っている。これまで区・自治会という小さな範囲の地域コミュニティで課題解決をしていただいていたが、10年ぐらい前から人口が減っていく中で小さなエリアでは解決できないので小学校区エリアで自治振興会を立ち上げていただいた。ただ、資料にも記載しているように、自治振興会の今の課題も認識している。特に自治振興会と行政との懇談がもてていなかったことがあげられる。今日皆さんとお話をしてすぐに解決できる、あるいはお願いします、ということではない。課題を共有しながら今後どのように進めていくかということで、今日は自治振興会の仕組みと小規模多機能自治の仕組みを併せて説明をさせていただいた。決して今日はここであらためて「みなさん頑張ってください。」というわけではない。まずは、ざっくばらんに意見を賜りたいと思う。質問は担当が答えるが、まず初めに本日お集まりいただいた趣旨、意味あいをお話させていただいた。よろしく願います。

#### 福祉医療政策課

この資料ではイメージし難いというご意見については、限られた時間での説明のためこのようになってしまったことをお詫びする。今後、もう少し分かりやすい資料に工夫してお示しする。

自治振興会に何を求めているのかということについては、他町の意見交換会でも同様のご意見をいただき、その点の説明不足を痛感している。資料1の3をご覧いただくと考えられる取り組みが示されている。

これまで色々な主体が個別に活動されているが、手法が違っていても目指すところはたぶん同じなので、皆が同じ方向にベクトルを向けて課題を解決していこう、そのようなイメージだと思っていただきたい。自治振興会の色々な取り組みは福祉からのアクセスやまちづくりからのアクセスであったりするが、図の真ん中にあるようにその目的は同じだと思うので、全体としてこのようなイメージを持っていただき、それぞれの役割を果たしながら同じ目的に向かうという捉え方をさせていただければありがたい。

#### 政策推進課

自治振興会に求めるものについては、設立をお願いした平成22年当時と変わってなく、いわゆる補完性の原則、まずは最も小さなコミュニティである家族でやり、そこでできないことは地域が担う、その部分が自治振興会である。また、補完性の原則を平たく言えば共助の精神、これが重要であり、このことは今回に限らず以前からお伝えしていることである。

## 各自治振興会の活動状況(コロナ対応等)、次年度の予定

### 鮎河

令和2年度の活動は新型コロナの影響でほとんど中止した。その中で慰霊祭はできた。敬老会は記念品等を配布した。防災訓練もできた。その他の活動は現状やっていない。文化祭や男の料理教室などはコロナが終息に向かえばやる予定だが現状は厳しいと思っている。

### 山内

事業交付金委員会は5月に会議し、来年1月にも会議を行う予定である。地域福祉部会では、学区民スポーツ大会、人生百年元気の集い(ゆうゆうクラブ)は中止した。交通脳トレは5回の実施予定を1回に縮小、アンケートを実施した。併せて実施の文化祭は展示のみに縮小、敬老事業も祝い品の配布のみとした。安心環境部会の獣害対策事業は計画どおり通年で活動いただいている。防災研修会は中止、里山整備事業は概ね10ヘクタールの山林の間伐推進で、実際は森林組合が作業、振興会の立ち位置は地権者への協力依頼や会議の開催で、3月に精算のための会議ができるところまできている。夢づくり部会は一応全部やっている。山内ふるさと物語事業では、今年度紙芝居を制作いただいている。アロニアは維持管理に徹している。生で食べられないという欠点があり、商品化に苦慮している。HPは適時に更新しているので見ていただきたい。これまであった特産品部会は地域内経済活性化事業と位置付けた。「ちょっとでも儲かると生きがいになる」という声を反映して振興会から分離して運営を始めていただいた。

今年度は総会ができていない。書面議決をしたが100%の同意が集まらなかった。

### 土山

総会は書面議決で承認をいただいた。当初の計画の中で三密にならないものは積極的に進めていくことでスタートした。まず地域福祉部活動は三密回避のために事業は止めていたが、先日、体育館を借り福祉セミナーを実施し、そのあとポッチャ大会、ニュースポーツの体験学習をしていただいた。参加人数は51人。12月には田舎の地域づくりフォーラムを開催する。安全・安心・環境部では荒廃地を耕してコスモスの種を植えた。既に刈り取り、種を採取して来年につなげる。道の駅の西側は道のお客さんに評判が良く記念撮影もされているので、来年も引き続き実施したい。交通安全啓発はチラシを作って全戸配布した。飛び出し坊やの老朽化により今年度振興会で100枚準備して区に配布、設置いただく。(96枚配布済)産業振興部では福祉セミナーで3品の特産品を出品いただいた。会場での試食は遠慮いただき、家に持ち帰ってもらいアンケートハガキでその感想を求めている。教育文化人権部の人権セミナー等はコロナのため見送った。広報・啓発部では、年3回の広報紙を計画どおり発行する。プロジェクト事業では昨年度から空き家の有効活用を進めてきた。うまく行きかけたが相手さん、家主さんがいるということもあって今月で一旦終了することにした。2月から3月の土山宿まちなかひな祭り、これも今年開催する方向で進めている。

### 大野

事務局、本部の事業はコロナ対策を考えて実施をした。学区民ふれあい事業は各種団体活動展示という形にした。ふるさと再発見事業、「大野っ子」学校外教室、野洲川環境教育事業、生きがいくくり事業も交流事業同様にコロナ対策を講じたうえで実施済または実施予定である。その他の事業も実施した。いきいき元気部会では3つの事業を計画したうち、球技大会と元気な体づくり事業の2つを実施又は実施中である。安全安心部会は4つの事業を計画した。防災対策事業は備品の購入、交通安全確保事業は通学路の安全確保、見守りを行い、人権研修、防災研修についてもコロナがどうなるか分からないが今後計画していく。ふるさと振興部会ではふるさとウォーク、子育て支援は中止、清掃ボランティアは実施予定。広報部会では広報紙を発行した。

説明のあった2つの事業については、今年組織や事業を見直す時期が来ているということで、アンケートを実施する予定である。小規模多機能自治に対する課題も出てきていることから、その結果を受けて次年度事業を考えていきたい。

## 意見交換、その他

### 大野

アンケートのことは先に触れた。大野学区の地域課題をあらためて掘り起こす必要があり、組織の中にも課題がある。メリットとしては情報の伝達周知や協力体制が根づいているが、継続性について区長の任期などから今後検討していかなければならないと考えている。

### 土山

来年度も今年度と同様に進めていく。特に継続しなければならないのは、今年始めた特産品事業で、産業振興として来年も進めていきたい。

### 山内

山内の課題、少子高齢化、鳥獣害対策、集落機能の維持と集落環境の保全、これが山内自治振興会のテーマである。どこの地域にも課題がありそれを地域が考えている、そういう状況を知ってほしい。すべてが地

域福祉と連携できるものではない。一部の委員からはそういった取り組みをしたいという声もあるので、アンケートを取って次年度につなげていくようなこともしているが、なかなか全てに取り組めない。また、今日の説明の趣旨や必要性は理解できても、空き家や災害対策に取り組む住民には福祉と結びつかない。市や社協からの具体的な提案があれば次年度において考えていきたい。

#### 鮎河

まだ計画できていないので変わる可能性はあるが、予定としては各部会が例年している事業を進めていきたいと思う。鮎河としての問題は閉校になった鮎河小学校。募集をかけていただきうまく決まればよいが、みんなで考えていきたい。保育園は来年度に改修していただけるが、少子・高齢化が進んで空き家もかなりある。更地にするかどうか行政とも相談が必要。

#### 政策推進課

小学校等の利活用について山内小学校はフグの養殖に活用させていただく。山内保育園の活用は未定。鮎河小学校は活用事業者を公募している段階、事前にヒアリングしている事業者も何社かある。保育園は鮎河公民館、消防車庫の複合施設として改修して機能集中させ、現在のものは解体を考えている。これらは総合政策部で進めている。何かあれば担当に問い合わせいただきたい。

#### 大野

令和3年度の自治振興会に対する予算立て、見通しはどうなっているか。

#### 大野

コロナ禍により各自治振興会が判断に迷い悩んでこられたと思う。コロナ禍での事業については一定市のHP ページで示されているが、具体的に市の方から指針や自治振興会に対するガイドラインを示していただくことは可能か。おそらく一気に終息するとは思わない。自治振興会自体が縮小するので、ガイドラインを示していただくことが事業実施の目安にもなる。

#### 政策推進課

6月に区・自治会、振興会対象のコロナに関する意見交換会をした。先の見えないコロナ禍において、今後はウィズコロナ、コロナと付き合っていくことへのガイドラインの必要性は感じている。他の自治体では示しているので、先例地のものを見たとえで参考にしながら総合的に判断できるガイドラインを検討していきたいと思う。ご意見はお預かりする。

#### 山内

今後はみんなが発言できるように工夫願いたい。

## 自治振興会との意見交換会の発言記録(要約)【甲賀地域】

日 時	令和2年11月25日(水) 14:00～
場 所	甲賀大原地域市民センター 2階会議室
参 加 者	振興会 大原：大原(会長)・廣岡(副会長)・市川(マネ) 油日：堀口(会長)・開田(副会長)・堀田(事務局員)・吉田(マネ) 佐山：三日月(副会長)・橋本(理事)・中嶋(マネ)
行 政	細井所長・黒川地域振興課長 村田福祉医療政策課長・山本同課長補佐・稲葉同課主事 築島政策推進課長補佐・北野政策推進課係長・呉竹理事員
社 協	大倉課長・橋本センター長

黒 川	司会・進行
細 井	あいさつ
大倉・山本	「地域共生社会(我がごと・まるごと)の推進」について説明
北 野	「小規模多機能自治の推進」について説明

### 説明事項に関する質疑応答

油 日	意味が分からない。今説明があったことに対して、我々はどのような質問を返したらいいのか。政策推進課の説明は以前から同じ資料による。昔から同じ資料を出して今更意見を聞いて何の意味があるのか。
-----	---

#### 政策推進課

自治振興会は10年目を迎えているが、何度も同じことを申し上げている。そもそも人口減少、少子高齢化の中で、支え手、受け手といった関係を超えて、皆さん一人ひとりが当事者として福祉の視点でこれからの社会を生きていくにはどうしたらよいか、そのために自治振興会によるまちづくりと連携しながら行政も一緒になって誰もが住みよい地域共生社会を創っていこう、そういう話を提供させていただいた。あらためて何かしてほしいというものではない。今までの自治振興会の取り組みの中で地域共生というものにみんながより知恵を出し合いながらこれからのまちをどうしていけばよいか、福祉は全ての皆さんに関わることなので、10年後、20年後は見えないが自分の事として地域のことを考えていこうという視点での話題提供である。

#### 大 原

行政が自治振興会のことをどう考えているのか良くわからない中で、今年、今までであった健康福祉部会をやめた。理由は大原学区で取り組んでいることを、そのあと社協が甲賀町全体で同じことをやる、こういうことが何年か続いたのでやめた。それ以外でも、歴史・観光の円卓会議などを行政を含めてやっているが、その中でいつも出てくるのが旧甲賀町単位の話で、自治振興会だけが小学校区単位の話をしてもうまくいかない。防災においては危機管理から区長に直接話がいく。自治振興会が中心だと言われながらも直接くることはない。言われていることと実際とがなかなか噛み合わず難しいところがあるので、よっぽど変えていかないとうまくいかないと実感している。

#### 政策推進課

自治振興会の枠では事業がやり難いこともあるかと思う。参画協働委員会の提言の中には振興会の単位の見直しということもあるが、いきなり変えるのは難しい点もある。他の自治振興会と事業で連携するとか、旧町単位の方がスケールメリットがあって活動の幅も広がるというのであれば、甲賀市一律に小学校区単位としないことも検討していかなければならないと思う。

情報の伝達経路については行政の課題でもある。一律に今までと同じように区・自治会にお願いするのか、自治振興会を中心にするのか、いろんな意見をお伺いして市で決めていかなければならない。しかし、現状おっしゃるように、振興会が大事だと言いながら情報が区・自治会に行くというのは課題だと思っている。

#### 佐 山

佐山学区の取り組みの中で、サロンは例年参加者が喜んでいて、スタッフとも良い関係である。青パトも車を購入して運営しており、過日、県警と防犯協会の連名で表彰を受けた。区単位でできることと学区単位でできること、また日常生活圏域といえる旧町単位でできることは内容によって枠組みが変わるので、そこをうまくやっていくことかと思う。

もう一つ、振興会の事務所は農協の店舗を借りているが、小規模多機能自治を考えるのであればフレキシブルな活動ができる拠点を整備していただく必要があると感じる。

なお、保育所や学校などとも連携をして活動していること報告しておく。

#### 政策推進課



振興会事務所については、昨年から意見をいただいている。参画協働委員会からも地域活動がしっかりとできる拠点整備の提言をいただいているので、近くの公共施設へ移転できるように努力して進めていく。大原自治振興会からの防災のご質問に関して、地域防災計画には市民それぞれの役割に区・自治会はあるが自治振興会の位置づけがないのが現状。市の各分野別の計画や事業展開においても自治振興会が位置づけられるように進めていきたいと考えている。

## 各自治振興会の活動状況(コロナ対応等)、次年度の予定

### 大原

総会議案は書面決議。各部会は人を集めることができなかつたし、部の会議自体もできなかつた。活動としては、本部事業として区長とのやり取りだけで出来る取組みは、ほぼ予定通り実施できている。

会議ができないので、部会や役員会はWEB会議、ZOOMを使うようになってきた。円卓会議も行政の方を交えてZOOMで行い、この取組はある程度進められた。今年事業が進められなかつた分の計画変更としては、WEB会議の設備の充足に、コロナ禍が来年度も続くという想定で取り組んでいる。

次年度の計画としては、子育ての円卓、歴史の円卓、里山等の話を進める中で、佐山、油日と一緒に取り組む方が皆さんのためになるという声が出てきている。地域特性があるので、行政を含めた中で特に福祉関係を頑張っていくために3つの振興会が一緒になってやっていくことを考えている。来年度は、まずイベントを減らして課題解決の取り組みを進めたいと考えている。

### 油日

今年度、皆さんが集まって何かをやることはほとんど中止した。特に高齢者が集まる健康増進事業等、リスクが及ぶ事業は止めた。総会は書面決議、事業立案は皆と議論すべきだが、しかたなく三役だけで行った。今年事業ができていないことに、我々の学区は、残念だとか、来年に期待するとの意見が全く出ない。前から言っているように住民からほとんど必要とされていないので、来年度はコロナに関係なく代議員の賛同を得て事業、組織を大幅に縮小することとしている。

大原、佐山、油日3地区合同の福祉フォーラムなどはやればどうかという意見もあり、福祉や防災は私ども同じ意見だが、学区で行う住民対象の事業は来年からはしないと決めている。住民の理解を得られない自治振興会をこれから発展させることは無理と思っている。組織を小さくして高齢化社会になって本当に困る時が来たら皆さんで考えてもらえるような活動方向に持っていこうと思っている。

### 佐山

例年の事業はほとんどできていないが、役員会、三役会は例年通り開催した。毎年行うバーチャルウォーキングは熱心に活動いただいている。若い人たちによる佐山プロジェクトを組み、昨年度実施したアンケートの結果説明会を開催した。若い人から良い意見を出していただいているので発展につなげたい。

バスの関係では、買い物等の利便性について過日役員が体験乗車を行ったが、高齢者には時刻表などが見にくくて利用し難い面がある。そこでバスの配車やルートに関して議員に提案した。

地域の高齢化が進み、昼間家にいるのは年寄りばかり。自主運営のサークル活動を考えて、子育てサークルや釣部、草刈り支援、小学生に人気のボルダリング、来年はアルミ缶集めで少し収益を出そうということなど、サークル活動を自分達の運営で始めようと、来年度できることから始めていきたいと思っている。年寄りばかりになって難しい面もあるが、ボルダリングや子育てサークルなどは若い人が頑張っている。

## 意見交換、その他

### 福祉医療政策課

大原自治振興会にひとつお伺いをする。コロナの影響でご足労されたことが伝わった。その中の事業計画の変更について、設備の充足という話があった。私どもにも事業を変更するにあたって福祉団体から相談が来ている。コロナ対策の第一は感染予防だが、その中での設備の充足、ソフト、ハードを含めてもう少しお話いただきたい。

### 大原

コロナが発生してからリモート導入の話をする中で、スタートは皆がしているLINEで始めたが、画面共有などが出来ず限界を感じたので途中からZOOMに変えた。うちの場合は9人くらい自宅かスマートフォンでZOOMができた。環境がない人や、顔が見えなあかと頑固に言う人もいたが、今はヘッドホンをつけて話しておられる。

まずは事務所に運んで始めたが、PC1台に2~3人でやるとハウリングするなどうまくいかない。それなら振興会で5台くらいとヘッドホンを揃えたら参加できると考えて、家にある不要なPCを2台出してもらった。欲しいのはZOOM機能だけなので、あと3台はネットで中古を確保した。ヘッドホン等はそんなに高額ではない。PCでは人の顔が小さいので、壁一面のスクリーンも購入した。

### 政策推進課

事業変更については、手引きに基づいていただきたい。何でも変更届を出せという訳ではなく、皆さんが決めていただくことがベースにあるが、教えて下さいというスタンスで届けてほしい。市役所が良し悪しの判断

をするというより、市に知らせるという意味で報告いただきたい。センター長やマネージャーと相談しそれが必要であり有効だということなら購入いただければよい。物だけ買って人が動かないという事例もある。物はツールなので、人の動きにつながり、第三者に客観的に説明できるものであればよい。

**大 原**

市役所は ZOOM の環境が一番悪いと感じている。ZOOM を使えば人や物を移動させなくてすむので、市としても楽だと思う。

**福祉医療政策課**

最初は抵抗のある方もおられたと思うが理解を示され一緒にコミュニケーションを取ろうという姿勢がよく分かった。今はコロナ禍で ZOOM の活用を進めておられるが、災害時の活用などに議論は進んでいるか。

**大 原**

防災の活用までは至っていない。各区の防災計画をつくろうとしているが、振興会内 10 区で進んでいるところとそうでないところとの差は大きい。進んでいるところは区の中で無線機の充実を図ったり、少人数単位での安否確認や、バイクでの連絡の取り合い、それを防災士と一緒に各区に広めていく方向を考えている。IT を使うことは今のところ考えていない。

**佐 山**

ご近所福祉推進協議会について、今年度から、3 自治振興会の役員と地域マネージャーにも入ってもらって協議会を毎月 1 回やっていて、情報共有や話し合いをしている。例年だと情報交換、情報共有のフォーラムをしているがコロナで中止となった。

これまで 3 回のフォーラムを開催して、防災や地域の居場所づくりで先進的なところに発表いただいた。それが他の区・自治会へ広がり百歳体操や配食サービスの実施に繋がっていくと思うし今後もそういうものを作っていく必要があると思っている。今年は今までを振り返り、データベースになる東近江の「道普請マンダラ」のようなペーパーベースのものを作ろうと考えている。

自治振興会の役員は自治会の役員があて職だ。手上げ方式ではないので毎年入れ替わる。区長は 2 年間いてくれるがそれ以外は総入れ替えのため、活動の蓄積やコンセプトの継承ができない。これまでやってきたことがなくなったり新たな取り組みに変わったりする中で淘汰され、広域のサロンや青パトとか良い活動が残ってきている状況かと思っている。

コロナ禍の中、JA ユーハートが移動スーパーを始めたので佐山の 4 区に順番に来てもらい、その際に井戸端会議ができるような場所の提供ができればと考えている。

コロナ禍で事業は中止となったが、私自身、完全終息はないと思う。元には戻らない中、どのような運営をするか、区・自治会の活動を振興会が担うことも考えられると思っている。

**油 日**

ご近所福祉協議会と社会福祉協議会の位置づけはどうなっているのか。過去にご近所福祉協議会に参加させていただいたが、そこに社協の方がおられた。活動内容が違うのか。

**社会福祉協議会**

ご近所福祉協議会は第二次甲賀市地域福祉活動計画に基づき、住民を中心に地域福祉活動を行っていただくために設置いただいている。その事務局支援という関わりで、社協が入っている。また、社協だけではなく、地域包括支援センターや地域マネージャーにも声をかけながら、住民が中心だけれど専門職や行政も一緒に地域づくりを進めていく組織である。

**油 日**

高齢者支援事業という議案で、高齢者に対応いただいている民生委員・児童委員を集めて、自治振興会で高齢者にどのようなことができるか議論をした。民生委員・児童委員はそれぞれに活動しているが、他地域での情報を提供してほしいという意見があった。それに関して社協を訪れて資料が欲しいと言ったら、それは難しいと言われた。我々は活動の事案を整理して地区にお渡ししたかったが、それがなぜ難しいのか分からない。実際に社協から資料をもらって一覧表にする作業は難しいのか。資料はないのか。社協がどのような役割をしているのか、みなさんは知らない。

**福祉医療政策課**

民生委員は厚生労働大臣から委嘱された立場の方。社協はその活動を支えるために組織された協議会の事務局をされている。

**社会福祉協議会**

油日自治振興会で資源の一覧を作りたいという話は聞いていたので、部会長をされてる民生委員に確認をしたことがある。その話が具体的に進むのであれば、話し合いの場に入らせてほしいと声をかけたが、そこで止まっている状態だ。

社協が取り組む高齢者事業についてのやり取りは初めて聞かされた。社協の認知度が低いのは承知しているので、情報の発信をしていかなければならないと思っている。

**大 原**

前の会議でも言っていたが、今後、3自治振興会が定期的に会合をしてはどうか。それは必要だと思う。こういう時に限ってそれぞれがあらたまって発言するよりも、定期的に集まってそこに行政が指導しに来ていただく、そういう形を提案する。

**政策推進課**

こちらが集めるのではなく、皆さんが情報共有したいときに行政をお呼びいただければ、調整し行かせていただく。行政の施策や取り組みが知りたいとか、悩みがあるとか、ぜひお声をかけていただきたい。

**甲賀大原市民センター長**

調整、連絡は市民センターが行う。

## 自治振興会との意見交換会の発言記録(要約)【甲南地域】

日 時	令和2年12月1日(火) 19:00～
場 所	甲南第一地域市民センター 3階会議室
参 加 者	振興会 第一：山本(会長)・山本(副会長)・方山(事務局長)・馬場(マネ) 南柚：神山(会長)・望月(副会長)・福前(事務局長)・中(センター長) 宮：中野(会長)・山川(事務局長)・高岡(センター長) 中部：望月(会長)・山中(副会長)・藤川(事務局長)・長谷川(マネ) 希望：吉田(会長)・松尾(副会長)・藤原(副会長)・山本(事務局長)
行 政	吉川所長・辻地域振興課長・出嶋政策推進課長 田中健康福祉部次長・山本福祉医療政策課長補佐・方山同課主査 築島政策推進課長補佐・北野政策推進課係長・呉竹理事員
社 協	大倉課長・平子センター長
<b>辻</b>	司会・進行
<b>吉川</b>	あいさつ
<b>大倉・山本</b>	「地域共生社会(我がごと・まるごと)の推進」について説明
<b>北野</b>	「小規模多機能自治の推進」について説明
<b>(説明事項に関する質疑応答)</b>	
<b>希望ヶ丘</b>	
<p>ご近所福祉や地域共生はすばらしい活動だと思う。ボランティアグループ「スプーン」という団体に所属しているが、先日、86歳のおばあさんが地域とのつながりがなく孤独な死に方をされた。社協からの依頼で後片付けに行ったが、セーフティにかからない、どこにも相談できないという人がこれからどんどん増えていくのではないかと危惧している。</p> <p>「スプーン」で延べ2日間、約35人、社協さんとも一緒に片付けをしたが、これはボランティアグループの枠を越えた活動であったと私は思っているし、反省会でも同様の意見が出ていた。セーフティネットの網にかからない人のために、行政のもっときめ細かな対応を望むし、自治振興会もこういうところに目を光らせていただきたいと感じている。会長からも生活支援の事業を立ち上げて支援してはどうかというご意見もいただいた。各自治会、自治振興会でも来年度計画に生活支援の事業を打ち出してほしいという希望があるので、この場を借りて話をした。</p>	
<b>健康福祉部</b>	
<p>生活支援課長を兼務しており、今の話はまさにうちで対応しているケースであると思っている。私どもにはゴミ屋敷、引きこもりの問題など多くの課題、問題が入ってきている。今の制度は縦割りで、そこから漏れる人は多くおられる。細やかな対応ができていくかという、今の話でいえば、家の掃除はどこがするのか、例えば民生委員等の力を借りているのが現状である。地域共生社会で国が目指しているのは従来的支援体制の整備、断らない相談支援、制度の隙間に落ちていくことのないような支援体制をつくっていく、それと参加支援、もうひとつが地域づくり、という3つの大きな柱がある。お話のとおり、地域での見守り活動、生活支援活動、生活困窮者は見えにくい方が非常に多いので、そういった人をどのように地域で支えていくかは市でも方向性は検討することだが、その方々を発見しやすいような、支えていけるような地域づくりを地域共生社会で目指していきたいと思っている。</p>	
<b>希望ヶ丘</b>	
<p>地域共生、小規模多機能自治は自治振興会制度の当初から投げかけられた課題だと思っている。この10年間、希望ヶ丘まちづくり協議会としてはそれに取り組んできたと考えている。そのうえで自治振興交付金を活用しながら地域共生社会であったり福祉の領域に力を入れたいと思っているが、市の交付金マニュアルの中で「地区社協等の事業に対し交付金が活用できるのか」という質問に、自治振興会事業に取り込んで活動する場合は交付金が活用できるとあり、自治振興会が活動しようとする、交付金が活用できないという壁にあたる。制度と現状が合わない状況であり改善が必要だと思っている。ご近所福祉推進協議会を旧町域で作られたが、そこで話し合われる内容が自治振興会と連動してなく、事業として取り込まれていない。我々のご近所福祉事業を取り込みたいと思っているが、現状の市の方向と社協の方向では希望ヶ丘でご近所福祉の活動をいただいている方々を取り込めないのが早急に制度の改善を図っていただきたいと思う。すでに我がごと丸ごと地域づくり体制を実施しているので、細やかな配慮を願いたい。</p>	
<b>政策推進課</b>	
<p>交付金の活用に関しては市民参画協働推進検討委員会からも提言をいただいております、交付金活用のルールの見直しや明確化を現在検討しているところである。この意見交換会でもご意見をいただいております、実際に</p>	

活動されているから見えてくる課題だと認識している。交付金の弾力的活用というテーマもあるので、福祉協議会とも話をしながらルールを守った上での制度の見方、在り方を検討させていただく。また個別に相談をさせていただきたいとも思っているが、制度の改善にはしっかりと向き合っていく。また、お知恵、ご提案を賜りたい。

### 政策推進課

自治振興付金の手引きがある。手引きの周知ができていないという市へのご指摘もあるが、見直しを進めていくべきだと思っている。手引きの中のQ&Aが、時代や社会情勢が変わっても当時のままである。こういう意見交換会をとおして変えるところは変えるなど、ブラッシュアップしながら皆さんとの共有が必要だと思っている。今は書いてあることを前提に進んでいるが、ご意見も違うと思うので、今後皆さんが共有できるように、手引きの見直しを一緒に進めていきたい。

## 各自治振興会の活動状況(コロナ対応等)、次年度の予定

### 第一

当振興会は防犯防災部会、地域振興部会、まちづくり部会の3部会で取り組みを進めている。防犯防災部会では、まず防犯パトロールを毎日継続的に実施していて、本年度の滋賀まちづくり大賞の受賞が決定している。我々の活動が認められたと思っている。2つ目は新入学生へのヘルメットの貸与を続けていて、本年度も実施した。防災機材の計画的整備は当初50万円の予算だったが、コロナで七夕まつり等が中止になったので、その分20万円を上乗せて計画中、次年度も継続予定である。防災研修会はコロナ禍であるが第一小学校3年生以上の児童を対象に実施した。地域振興部会は自治振興会と各区が共催で文化祭等を計画していたがコロナでほとんど中止になったので、普段できない防災防犯機材の充実、コロナ対策としてマスクや消毒液、体温計の配布事業を実施した。地域活性化事業の移動支援や見守りについて、移動支援はアンケートをとるなりして次年度につなげる予定。七夕まつりはコロナで中止、予算の一部は体温計、一部は防災機材の整備に充てる。天保義民を語り継ぐ会は開催した。まちづくり部会は高齢者支援事業としてプロジェクトチームを立ち上げて移動支援、特に森尻、宝木、耕心地域がコミタク対象地域でないことから、3区と懇談会をしてアンケートをとりながら情報収集し、市とスタッフ会議を持ってより良い交通システムの在り方を議論した。見守り活動は月に1~2回各区で実施しているが、緊急事態に機能するかという危惧があった。市も緊急通報システムを導入されているので、我々も65歳以上の独居家庭にシステムを導入することを前提に各区と意見交換、アンケート調査を現在実施中。学区の子育て広場「第一っ子」を昨年に引き続き実施する。次年度は高齢者支援活動を中心にさらに防災防犯に特化した活動を進めていきたいと考えている。

### 南 杣

コロナの関係で当初の計画はほとんど実行されていない。地域環境整備は各地域で草刈り等を実施した。敬老会事業は例年は公民館等で催しを行うが、今年は商品券の配布のみ。安全安心のまちづくり事業は消防ホースの更新、飛び出し坊やの作成、これはPTAで設置をしていただいた。まちの景観を守る事業は月1回、役員が環境パトロールを実施している。心と心触れ合うまちづくり事業は、マスクケースを作成しマスク2枚を入れて小学生全員に配布した。また、12月に非常食を使った弁当を小学生に配布する予定。健康ファーム、学区民運動会、視察研修等は中止となった。来年度はコロナが終息すれば今年度の計画事業をやりたいと考えている。新しい取り組みとしては、これまで防災に関することが全くできていなかったのを、啓発や防災訓練を実施したいと思っている。

### 宮

役員会と理事会は定期的にやっているがコロナ禍で住民同士のコミュニティ事業はほとんど中止というのが現時点、残された今後の事業も、第三波といわれる中で年度末までは中止という判断をさせていただいている。防災備品の配布や草刈りなど、人と接しない事業をしているのが現状。

令和3年度も目途が立たないが、コロナが終息したという予測の中で事業計画を検討している。また、10年目ということで、まちづくり計画の見直しに取りかかっているもので、それとの整合を図りながら、またこれまでの事業を踏襲、継続させながら年明けに計画を立てる。コロナ禍の備品も今準備をすすめているところである。

### 中 部

中部学区の歴史を深く探求しようと、歴史ウォーキングを実施している。去年は磯尾、池田。今年は野尻の予定で他の地域からも参加を募って進めようとしたが、コロナで人が集まる事業は無理と判断し中止した。事業は継続、順次実施する予定。歴史に関しては「中部学区の歴史」を10月に発行して配布した。またこの図書を作った資料が散らばってしまわぬように、また中部学区の歴史の継承と発展のために歴史文化会を作って活動している。

今年から防災士の指導のもとに災害図上訓練を行い、池田、池田団地、竜法師が実施した。野田も実施予定である。1月には歴史セミナーを実施予定、人数はコロナの関係で制限している。交通の関係では奉公山下の交差点に看板を設置予定、交通事故予防に取り組んでいる。歴史事業に関しては竜法師と磯尾にウォーキング看

板を設置、これも順次設置する予定である。

池田団地のシラサギ被害に対して大日池周辺の木の伐採を行った。

### 希望ヶ丘

資料を配布したのでそれに沿って説明する。基本的には、国が示した我がごと丸ごと地域づくりの体制で実地している。誰一人取りこぼさない小規模多機能自治の実現に向けて推進している。

希望ヶ丘は約2,700世帯、約7,300人、甲賀市の人口の約8%が暮らしている。国政調査人口では集中区域D I Dに指定されているので、自治振興会の事業、活動は細分化しており、大きな事業はしないことを心掛けてきた。それでコロナの影響は少ない。事業は8つの大きな事業がある。未来づくり事業、学区内連携事業、交流促進事業、子ども育成事業、安全なまちづくり事業、健康福祉事業、地域環境整備事業、行政区運営事業、その中で新規事業の検討、地域カルテの作成、学区情報の共有、地域広報紙の発行など、約30の事業を今年も問題なく運営できた。

平成23年に自治振興会が作られてから大きく5つの計画で今まで進んできた。1期目は設立、2期目は分会の統合、3期目は名称変更、4期目で行政区の新設。私は5期目で、防災センターを使いながらさらに我がごと丸ごと地域づくりによる自治を推進していきたいと思う。

希望ヶ丘にはもともと2つの区があったが、これらを廃止して1区とした。2区の頃は区費を払わない方がいて、市の広報紙や情報が行き渡らない状況があった。現在は1区となり自治振興会と被せることで、全戸配布ができる体制となった。

社会福祉法、災害対策基本法の改正等に伴う取り組みとして、区から漏れることのないように災害時における要支援者の避難行動計画策定に取り組む環境を整えた。

理事会は必ず開催し、コロナ感染予防対策のガイドラインを守りながら円卓会議にも取り組んでいる。同時に防災センター内に希望ヶ丘まちづくり協議会という窓口を開設し、プロパーのスタッフが常駐し住民への対応を行っている。区長文書は非自治会員に対しても配布するようにした。併せて配布文書のポスティングも始めた。ICTを活用してスマート学区への取組も進めた。防災減災事業では今年度ワンタッチテントとテント収納庫を整備する。

次年度の方向性は、本年と同じ目標に向けて進めるとともに、市からの事業受託や指定管理等を目指すこととしている。また、コミュニティビジネスの推進と地域雇用を創出し持続可能なまちづくりを進める。ソーラパネルの設置などがあがっているが、地域資源が乏しい地域としてコミュニティビジネスを考えている。最後に食品の宅配サービスを民生委員と一緒に検討中。地域内に様々な団体があるので協力していただきながら交付金を活用する事業を創出する予定。また、学区の課題に対して活動いただく方を募集する段階で、協働で解決する仕組みを広げている。

### 意見交換、その他

#### 宮

市へのお願いとして、平成23年から約10年の間に人口が183人減少している。975人から792人、市の人口推計とも一致していて、今後も大きく増加するとは考えられない状況である。現状維持するのが精一杯で、今後どうすれば良いか、現状を見て「こうやればどうか」みたいなことを考えるノウハウや地域課題を考える人もいない状態である。地域マネージャーがいるが、より具体的に、例えばその自治振興会の状況にあった切り口や、具体的なアイデアなどを市から指導していただくというか、人的なことも含めて考えてほしい。人が減ると交付金も少なくなるが、人が減ってもやるのが比例的に少なくなるのではなく、やることは同じようにやらなければならないので、支援をお願いしたいということがひとつ。もうひとつは資料2の最後に、自治振興会の課題が3点ある。意見交換会で出た意見をまとめていただいていると思うが、まとめた結果を、例えばこのように変えたとか方向性とかを示していただきたい。また、お金や制度、条例などはそのタイミングもあると思うのでそれを逸脱しないように説明を願いたい。

#### 政策推進課

地域によって様々な課題がり、それを解決する自治振興会の取り組みも色々だと思っている。人口が減っているのは避けられないことであり、市も一方的に自治振興会で何とかしてくれと言っているのではない。色々な意見をお聞きし、市としても考えていきたい。ただ、市が個別に指導するのは大変難しいと思っているので、今、地域カルテを整理した中でともに進めていただきたいと思う。マネージャーもスキルアップして一緒に進めていきたい。市では総合計画基本計画の中に課題を記載している。それが地域の実情に合っていないという意見もあるが、方向性は間違っていないという中で、きめ細かな対応の必要性も認識している。今のご意見のように支援を求める声があればお応えできるようにしたい。また当課に限らず、全庁的な旗振り役も努める。

#### 第一

第一振興会との懇談会が今年の1月23日であって、市民参画・協働推進検討委員会からの7つの提言に取り組みを進めるという話があった。その中で交付金の算定を人口割にプラスして面積割を導入、また事務加算金も引き上げる、事業加算金の使い方も見直していきたくてという話があり令和3年度から実施したいということ

を記憶しているが、どのようになったのか。また、令和3年度の事業計画を作るにあたって予算の関係があるので、令和3年度から導入されるのかどうかお聞きしたい。

#### 政策推進課

交付金の配分に違う要素が必要ではないかという話のなかで、例えとして面積割の話をしたと思うが、実際に導入するところには至ってない。これによって影響する部分もあるので、皆さんの総意を得ながら交付金運用の弾力化を検討している。事務加算金は最低賃金の上昇により、現制度の一律956,000円は実態とあってないので、現在、事業加算金の1割まで流用できることとしているが、これを2~3割まで拡大することも検討している。しかし、いずれも現状は検討中であり、令和3年度は従来どおりとご理解いただきたい。

#### 希望ヶ丘

自治振興会設立は、人口減少、少子高齢化などの課題解決を市から地域へ託された取り組みだと理解していた。当初は役員の固定化、人材不足などの課題を地域にお金で解決してもらおうと説明を受けた記憶があるが、10年が経過し一定のまとめが必要かと思う。希望ヶ丘だと狭い地域に人が多くいるので、他の地域と違い、何かの事業に500人とか来てしまうと活動ができないという課題がある。今、各振興会が地域カルテをまとめたが、振興会のこれまでの取り組みと、想定されていた課題がどのように解決されたかをまとめるような機会を与えてほしいと思う。そうすると各地域の取り組みが分かりやすい。私たちも気になる情報である。

#### 政策推進課

10年後、20年後の地域を見据えてほしいということで自治振興会を発足いただいたが、まさに今10年が経過した。この間、どのような取り組みをされたかを地域側で整理していただくというのは、良い提案をいただいたと感じている。市が行き届かなかったところも多々あるが、皆さんと共有することも必要だと思う。

#### 政策推進課

自治振興会ができて以来、このような機会が少なかったと認識しているが、話を聞いて自治振興会の取り組みを市がまとめるにあたり、意見交換をした中で色んなヒントが得られるような気がしている。自治振興会の横のネットワークが今までできていなかったことを感じており、今、前向きに取り組むことを考えている。これに対して皆さんからご意見をいただきたい。

#### 希望ヶ丘

地域では世代交代や人の出入りがあるが、役員の固定化を避けるために、また少子高齢化に対して区・自治会が弱ってくることに對して、年間1200万円いただいている勘定だが、一度どこかで仕切り直さないと次世代に説明できないと思っている。例えば地域に自動車が約4,000台あるが、これに対してどういう取り組みをし、どういう失敗をしたかを残さないと次の担い手がまた同じミスをする可能性があるので、記録簿を作ることを常に思っている。

希望ヶ丘の地域は狭いので面積割りで交付金を算出されると非常に困る。大反対である。人口割だと逆に嬉しい。地域差で変わることを市が決めよと問うても答えが出ないので、例えば自治振興会の会長同士が集まって決められる場があれば同意がとれると考えている。会長同士が顔を合わせる機会がないので、甲南町全体で歩調を合わせる広域な取り組みや平和的な解決をする意味でもそういう形で進めていただきたいと思う。

#### 宮

それぞれの課題は地域の大きさや利便性などで異なるので、自分の地域は分かっているが他の地域に「そのお金、要るのか。」という話はし難い。例えば、予算書や計画書に基づく交付金の支払いが可能であれば、もっと前向きに考えられる。返金している自治振興会もあると聞いている。事業に対して交付金が行きわたるのが一番公平であると考えている。

#### 政策推進課

自治振興会の交付金については10年たっても皆さんに納得いただけないところ、見えないところもあろうかと思うが、振興会の運営に関しては地域カルテ、地域マネージャーの育成など、これまでとやり方を変えて取り組んでいるので、今後も一緒になって考えていきたいと思っている。人口減少は避けて通れないが、そうなってから考えていたのでは遅いので、10年たったがこれからも自治振興会と一緒にやっていきたい。ご協力を賜りたい。

#### 中 部

今年はコロナ禍で事業が軒並み中止になった。当初は市長メッセージなどが出て、区や自治振興会などは事業を中止されてきた。今も第三波がやって来て、終息時期は分からない。しかし、いつかはウィズコロナでやらなければならない。しかし、そのときの役員は経験がなく、判断に非常に苦しまれると思うので、コロナの状況をタイミングをみて地域に対してメッセージを出してほしいと思っている。やって良いとか、ダメとか市から情報が欲しい。そうすると次の役員の根拠になる。これまでは中止でよかったがこれからは何かしなければならぬので、市からの情報提供をお願いしたいと思う。単なる要望である。

#### 政策推進課

全市的な話として、検討する。その中で地域ではリモート活用の事例なども出てきているので、自治振興会でも様々な方法を模索いただきたい。市も考えるのでそのときはメッセージなどを出すことを考える。

<b>第一</b>
<p>前回の7つの提言については取り組んでいただいていると思っているが、行政だけでまとまる内容ではないので、我々自治振興会の意見を吸収しながら良い案をまとめ上げていただきたいと思っている。7つの提言については自治振興会の役員の意見を聞きながら節目節目で説明をして頂きたいと思う。今後の取り組みの中で一考していただくようお願いする。</p>
<b>希望ヶ丘</b>
<p>提言を出した検討委員の一人であるが、今日は情報交換の場なので、希望ヶ丘の7つの提言の取組みについて、話をさせていただく。まず、多くの自治振興会で交付金の手引きにあるルールが守れていないことがあげられる。希望ヶ丘では精査をして規約改正もし、手引きルールを100%守るように地域側で運営した。区域は地域で定めた。区・自治会との関係も区を統廃合し地域で整理をした。自治振興会の周知については100%会員になったので、今それを行っている。コミュニティビジネスは我がごと丸ごと事業の中で今進めているし、地域マネージャーは地域で選んだ。市民センターの位置づけだけは難しいが(7つの提言は)概ね地域で解決ができた。</p>
<b>希望ヶ丘</b>
<p>希望ヶ丘は手引きに従って運営しているが、市が甲賀市全体の自治振興会活動を把握されているか疑問に思う。細かいことだが、第二学区は敬老事業で商品券を配布されたようだが、希望ヶ丘は手引きに基づいてダメとしている。そういうことを市で統一されているかお聞きしたい。</p>
<b>政策推進課</b>
<p>敬老事業はもともと皆さんが集まってコミュニケーションを図っていただく催しだったが、今年はコロナで特に高齢者の方はリスクが高いということで、6月の区・自治会、自治振興会の代表者会議で、今年は商品券やメッセージの配布も可能ということの説明した経緯があり、各自治振興会がそのようにされた。</p>
<b>希望ヶ丘</b>
<p>周知の仕方が問題。従来ダメなことの周知がされていなかったことが私としては(不本意)。振興会の中でもマスクを配ろうという議論があったが、手引きに従えば物を配る行為は禁止されているので、基本ダメだと判断して実施しなかった。ルールの解釈を徹底していただきたい。ルールを守った方が損をするようなことがないようにしてほしい。</p>
<b>政策推進課</b>
<p>提言書は市に対して提出されたものなので、ご意見を賜りながら市として判断させていただく。総合計画に「市民自治の追及」を掲げており、自治振興会は大きな柱となっている。ブレることのないように進めていく。</p>



## 自治振興会との意見交換会の発言記録(要約)【信楽地域】

日 時	令和2年12月3日(水) 14:00～
場 所	信楽地域市民センター 2階会議室
参 加 者	振興会 信楽：澤(長野分会長)・藤田(神山江田分会長)・大平(畑田代分会長)・田中(マネ)雲井：黄瀬(会長)・大原(事務局長)・里見(会計) 小原：山本(会長)・西谷(副会長)・中島(会計)・村木(事務局)・黄(マネ) 朝宮：洞(会長)・植田(副会長)・山本(副会長)・村井(マネ) 多羅尾：田中(副会長)・西尾(会計)・大塚(副会長)
行 政	古谷所長・大西地域振興課参事 田中健康福祉部次長・山本福祉医療政策課長補佐 出嶋政策推進課長・築島政策推進課長補佐・北野政策推進課係長・呉竹理事員
社 協	大倉課長・引田センター長
<b>大 西</b>	司会・進行
<b>古 谷</b>	あいさつ
<b>大倉・山本</b>	「地域共生社会(我がごと・まるごと)の推進」について説明
<b>北 野</b>	「小規模多機能自治の推進」について説明
<b>(説明事項に関する質疑応答)</b>	
<b>信楽長野</b>	
信楽の見守りネットワークに参画している。ネットワークは本日資料の4つのプロジェクトに取り組んでおられるが、参加されている方の肩書に意味があるのか。例えば振興会とネットを組むことはしないのか。それぞれに活動されているが結局ネットが機能していない。そのような意味でこのような形ならうまくいくと思う。	
<b>社会福祉協議会</b>	
見守りネットワークはそれぞれに活動されている人たちに入っただけの経緯がある。その中でおっしゃるように自治振興会に入っただけかどうか、という意見が出ている。あちこちから声をかけられるのはかなわんという意見もあるかも知れないが、実効性のある地域の中でのネットワークを考えると今後ますます自治振興会とのつながりが大切だと思うので、見守り活動ネットワークの中で話し合ってもらおう。	
<b>健康福祉部</b>	
この地域でも孤独死があって、見守りネットワークの方々が訪問していただいている中で見つかったという事例がある。孤独死を防ぐことはできないが、実際に亡くなられてから1ヶ月、2ヶ月見つからないということは避けていきたい、というのが趣旨。補足になるが、実際に社会的孤立が最近目立ってきている。障害、高齢者、子どもの施策は制度ごとに充足し、介護制度をはじめ、ある程度見守り体制はできている。しかし、引きこもりや8050、特に引きこもりが子供を殺傷した事件や、引きこもりの息子を事務次官の親が殺した事件など、急に引きこもりがクローズアップしてきた。でも行政に対策はない。地域でどうするかというと地域の責任ではないが社会的孤立を一人でもなくしていきたい、というのが地域共生社会の趣旨である。まちづくりサイドから言えば、すべての方が生きやすい地域の中で社会的孤立を防ぐことができる地域づくりに結びつくのではないかと、というのが地域共生社会の考え方である。	
<b>小 原</b>	
昨年度、小規模多機能自治の推進をテーマとした講演会があった。その時の内容は非常に良かったと思っていて、出来たら参加されていない人にも情報提供できないかと話し合った。文面だけではイメージできないし特に小原自治振興会は毎年役員が変わり昨年の活動状況が分からないこともあったりする中で、小規模多機能自治が分からない人も多い。コロナの関係で中断していると思っているが、継続的にしないと忘れてしまうこともあるので、継続的に取り組み、忘れないうちに情報提供をしていただきたい。	
<b>政策推進課</b>	
昨年2月に雲南市の川北さんをお招きして講習会をした。おっしゃるように小規模多機能自治という言葉は行政用語的である。もう少し噛み砕いて丁寧な説明が必要だということに併せて、講演等で聞いたことをセンター職員なりが継続的に情報発信し、皆さんが福祉的な視点で見守り等に取り組んでいただいているところに地域共生という考えを少し入れた中で、活動が充実出来たらと思っている。情報提供の大切さは感じているし継続的な情報の伝達とそれによる議論、コミュニケーションができるような情報の発信に努める。	
<b>雲 井</b>	

平成23年に自治振興会制度ができたときに、自治会からもう少し大きな単位でつくったらどうかという要望があったかどうか。それと当時は市からのトップダウンで出来たと考えているが約10年が経過してどういう成果があったのか、担当者にお聞きしたい。

#### 政策推進課

平成22、23年頃、市財政が大変厳しいことを市民の皆さんにお話しする中で、暗い話ばかりでなく前向きな提案はないのか、という声をいただいた。その頃、合併した甲賀市が一枚岩になるために、小学校区単位のまちづくりを研究していて、それをもとに自治振興会の話を投稿かけた。トップダウンというところも正直ある。しかし、中山間地域（土山山内）では役員のなり手不足等で区運営が難しいという話を聞いていたのも事実であり、概ね顔が見える小学校区単位でのコミュニティを提案させていただいた、というのが経緯である。

この10年の成果については、例えば自治振興会に関わった人の数など数値的なものはあるが、それとは別に担当として感じることは、区同士が関わることで他の地域の活動が見えてきた、他とも関わりを持ちたいというご意見をいただき、交流という点では成果だと思っている。ただ、区・自治会と振興会の二重構造、役割が違うんだけども担い手が整理されないまま、ましてや自治振興交付金の流れも振興会経由というところで区・自治会との関係性が少し難しいという声も聞いている。しかし、自治振興会ができたことで、交流や区・自治会だけでは解決できなかったことが制度としてできるようになったと感じている。ただ、課題はもっと沢山あるので地域共生を強調した中で自治振興会の価値を皆さんとともに考えていきたいと思っている。

#### 雲井

自治振興会はまさにトップダウンの施策だと思うし、担当が変わるとニュアンスが変わる。前回の説明は市が間違っていたというニュアンスで聞いていた。それは市の説明が足りないということではなくて指導が足らなかったということだと思う。それが10年間されていないのが今日の姿だ。今年の12月の会議でその説明があり約1年が経過している。この間、色々な意見があったと思う。それをまとめてもっと早い時期に我々に知らせるべき。自治振興会全体が一つの姿になるのは難しい。地域によって条件が違うので市と我々が話をしながらどうするかということをやっつけろと文句で終わってしまっている、それではいけないと思う。1年間が経過し、市は今後どういう形を目指しているのかということをやっつけろと明確にしてほしい。

もう一点は、地域マネージャーを設置されてどういうメリットがあったかも説明願いたい。

#### 政策推進課

自治振興会は10年経っても進んでいないというご意見は多分に伺っているし、そういう認識もしている。今日あらためてこういう場をセットしたのは、今日限りということではない。今も色々な課題があって、区・自治会との役割関係や交付金のこと、また10年前の地域の人口においても増えているところや減っているところがある。自治振興会単位でもそうだと思う。市のほうではこうした状況や色々な意見を踏まえて、市の考えを整理させていただき出す(示す)機会を設けようと思っている。今日はこういう説明をさせてもらったが、これで終わりではなく、振興会の皆さんとともにやっていく中で、話の内容をご理解いただきたいと思う。地域マネージャーも今の課題のひとつと思っている。マネージャーの姿や仕事を明確にしていかなければならないし、信楽と水口では多分にちがうので、ご相談、ご意見を賜りながら一緒につくっていききたい。信楽の人口が減ってきている。これも喫緊の課題と思っている。

#### 雲井

こういう姿が望ましいというところまでまとまってないということか。いつごろまとまるのか。

#### 政策推進課

今年度中にまとめて、いつかの時点でお示しする。

#### 雲井

自治振興会としても問題を抱えているのももう少し迅速に早くやらんことには前に進まない。真剣になってやってもらわないといけない。

#### 政策推進課

地域からはもっと寄り添ってほしいという話を聞いた。寄り添うとは話し合いや意見交換の意味で他の地域でもこのような会議やってほしいと提案をいただいているので、継続していこうと思う。

### 各自治振興会の活動状況(コロナ対応等)、次年度の予定

#### 多羅尾

多羅尾は1区1自治振興会で、事業も従来から区で取り組んできたものを割り振って自治振興会事業としてやってきた経過がある。夏祭りや体育大会がそれにあたるが、今年は催し的な行事は全て中止した。実施した事業は敬老会事業で、記念品を該当者にお配りした。その他、例年の草刈り事業は道草刈りを3回、川草刈りを1回、コロナ禍においても実施した。来年度の方向性については3月までに詰める予定。本年度に実施できなかった事業の予算的なことは、消防ホースの購入、街路灯のLED化などへの補正を組み執行する予定である。

<b>朝 宮</b>
自治振興会発足前から行事やイベントを学区単位で実施していた。その延長線上に自治振興会がある。令和2年度はコロナ禍であったが各部会ができる範囲で工夫して実施してほしいとお願いした。朝宮には4大イベントとして、敬老会、学校体育祭、文化祭、防災訓練がある。敬老会は久しい人と出会ってお話したいという声があったが、密になるので中止して記念品の贈呈とした。体育祭は小学生と地域が一体でやっていたが、学校が半日でということで、地域もこれに併せて実施した。文化祭は茶まつりと同時開催だが、茶まつりは中止になった。例年は体育館で小学生の発表会を午前中に行い展示やイベントを行う。昨年は300人くらい来られていて、これはダメだと思ったが工夫をして、小学生の発表会は実施した。人の集まりは少なかった。作品展示はセンターの和室を借りて会場を分散した。なお、事業を縮小したので編成替えして、各区、自治振興会の自主防災組織のハンディ無線機のデジタル化に使用、もう一つは朝宮の飛び出し娘の交換、それと朝宮にある様々なサークルの支援制度を立ち上げた。
<b>小 原</b>
例年実施している人が集まる事業は中止とした。小原小学校を中心とした事業はたくさんあるが、学校自体が中止しなければならない事業もたくさんあった。今年の運動会は学校と保護者だけでされたので写真が少なく、思い出づくりという自治振興会とタイアップしたイベントはできなかった。子ども同士や先生とは映っているが地域の人顔がないのが残念であり、反省点。来年もこの状況が続いたときに、やはり思い出づくりも考えてもらわないと、大きくなって地域の顔が写ってないのはいかかなものかと思う。事業消化だけを見れば代替事業で切り抜けたが、長い目で見たら自治振興事業もやれることを考えていく必要があると思う。ほとんどの事業は出来なかったが防災関連グッズ配布を事業として実施した。また、学区民の方に協力いただいて75歳以上を対象に手作りマスクを配布した。それと避難所運営に必要な用具を自治振興会で準備するとか、使い捨てスリッパの配布など役立つ事業に予算を使っている。
<b>雲 井</b>
6月の理事会でコロナ禍における事業運営を話あった。その中で、基本的には三密の回避と食事に関する事を議論した。子どもに関する事業では青空映画祭を実施した。例年は体育館でやっていたものを屋外で実施した。信楽高原鉄道のサンタ列車への乗車を計画中。文化福祉推進事業として、手作りマスクの製作、広報紙の年2回発行も計画中。5年ごとに見直しが必要とされる地域づくり計画改定のために全戸にアンケートを配って10月に回収、ほぼまとまっているところで、今後どのように分析し整理しながら進めていこうかを話し合う段階になっている。地域整備事業として例年防犯灯の更新や消火栓ボックスの整備も続けてやっている。見送った事業は毎年7月に実施している竹宵の夕べ、黄瀬のふれあい市場、地域と一体となって開催してきた小学校の運動会も学校だけでしていただいた。
<b>信楽田代・畑</b>
屋外で実施するものは実施、屋内は規模縮小で実施または中止ということを基準として、屋外は清掃作業で田代が4回、畑は5回、グランドゴルフ大会や虫送りという行事等は屋外でやるので実施してきた。屋内で中止したのは敬老会、粗品を贈呈して終了。籠(こもり)、商栄会と一緒にする夏まつりも中止。12月にはクリスマス2020をするが、例年ミホ学園から5~60人の生徒が来るが、地元子ども会と少人数で実施する。文化祭は展示と、落語を30分程度聞いていただき終わりにしたが多くの人が密になるような状況はなかった。来年度も今年度のスタンスでいこうと今の段階では思っている。
<b>信楽長野</b>
1区1振興会、今年の活動は他の振興会と同様で、敬老会は対象が高齢者のため中止を決めた。長野区では毎年70歳以上が増えていく。今回は記念品を一律に配っているので例年以上の支出になり、何もしないほうがお金がかかるという状況となった。クリスマス会も止めた。しかし、各部会で何もできないのは寂しいということで、年末に花火大会、24日のクリスマスには未就学児にクリスマスプレゼントの配布を計画中。防災まちあるきツアーもする。長野は山沿いと川沿いで住民の防災意識が違うので、山側と川側に分けて計画中、予算は使い切る計画である。来年度は密にならない対策をやっていこうと考えている。
<b>信楽神山・江田</b>
予定行事が中止のなか、みんなを元気づけることをやろうと、夏に無観客花火大会を実施した。敬老事業の祝賀会について、神山区は中止して記念品の配布、江田区は記念写真の撮影会を企画された。参加者は10数名だった。あとは記念品を役員がお家に配られた。11月にグランドゴルフ大会を実施、例年の事業で72名の参加だった。
<b>意見交換、その他</b>
<b>雲 井</b>
現在、市民センターに職員が配置されているが今後も継続されるのか。
<b>政策推進課</b>

<p>地域市民センターの在り方については、現在職員とマネージャーを配属しているが、市の施設や地元の施設をお借りしているところもあり一律にはいかない。今後は地元が使いやすいように指定管理制度を活用いただくことを含めて、地域の方で運営していただくように考えている。来年度については現状と同様である。</p>
<p><b>雲井</b></p>
<p>雲井の市民センターは牧区の公民館を借りているが、それは不備だと思う。アンケートの中でも寄り付けにくい、狭い等の意見があるので、人材はもちろんだがその点も整備していただかないと活動に影響すると思う。</p>
<p><b>政策推進課</b></p>
<p>場所の問題、立地の問題のご意見を聞きながら改善していきたい。なお、雲井センターは雲井小学校と話しをし、今年度設計、来年度工事の予定で進めている。</p>
<p><b>信楽長野</b></p>
<p>事務加算金について、多羅尾は満額で956,000円、信楽は3分の1。このような金額的なバランスは考えていただいているか。</p>
<p><b>政策推進課</b></p>
<p>地域雇用に貢献いただいているが、最低賃金時間単価が10年前から160円くらい上がっているので、事業加算金から1割の範囲内で流用できる制度を活用されている振興会もある。1割が良いかどうかは検討中である。</p> <p>雲井の市民センターの移転は当初予算にあげているので、今年度設計、来年度工事の予定で進めている。ただ入札がずれ込んで遅れた。これについては公共施設のマネジメント計画との関係もある。今借りている施設を継続するのが難しいところもあるので、集約をしながら市民自治を支援するバランスを考えていきたい。</p>
<p><b>小原</b></p>
<p>雇われの事務員をしている。信楽では事務員がいるのは小原だけと聞いている。区長さんに自治振興会の役員をしていただいているが、区長が代わると役員も自動的に変わるので、引継ぎの際に常勤の事務員がいると助かるのかなと思ひ、必要なポジションだと感じている。一緒にいるマネージャーとも連携しながら働いているので、マネージャーさんの負担も減るし事務員としても仕事をとおして地域のみなさんとの関りも増え、地域に根を伸ばしていることを個人的に感謝している。お金の話をはっきり言えば、事務加算金は少ない。私の給料を差し引いた残りを役員のお礼としてお渡ししているが、額が少なく申し訳ないので事務加算金を増やしていただきたい。また、コロナ禍でテレワークが増えたので、今年度スマホを事務局に購入いただいた。格安スマホだが、これも事務加算金からとなると役員報酬が減る状況にある。事務加算金は減らさない方向で願います。</p>
<p><b>小原</b></p>
<p>小原では雇いの事務員がいる。この形は信楽では小原だけだ。他のところの事務加算金はどこにいつているのか。役員がもらっているということになると思うが、市の職員に頼っている部分もあると思う。実態として職員にどれだけ負担がかかっているか、バランス感覚というか、本来の自治振興会の在り方をどのように市は考えているのか、教えてほしい。</p>
<p><b>政策推進課</b></p>
<p>事務加算金は制度的に金額が決まっているが、最低賃金も上がっているので1割までの弾力的な運用を進めたいと思う。事務加算金は振興会の事務局員の費用として設けた制度である。実際市民センターに職員はいるが、支援の在り方や関り方が難しい。センター職員は自治振興会の事務をするのではなく、先例地の情報提供や会議の持ち方など自治振興会がうまく活動できるようにコーディネートするのが本来の位置づけである。事務局員は会議資料の作成とか、まさに振興会の事務を行っていただくのが役目だが、実際には市職員が現場でフォローすることが多々あると思う。立ち位置としては曖昧だが側面的支援、振興会が動くように関わるのが基本なので、マネージャーのスキルアップにも努めていく。</p>